

Immersive Museum TOKYO 第3弾「印象派と浮世絵」

ベルサール新宿（新宿駅新南口） 24.07.10～10.29



第3弾の展覧会は、印象派と浮世絵に焦点を当て、印象派・ポスト印象派で知られる「ゴッホ」や「モネ」と、日本を代表する浮世絵作家である「葛飾北斎」や「歌川広重」らの作品が競演する仕掛け満載で楽しめる企画での開催である。

<主な見どころ>

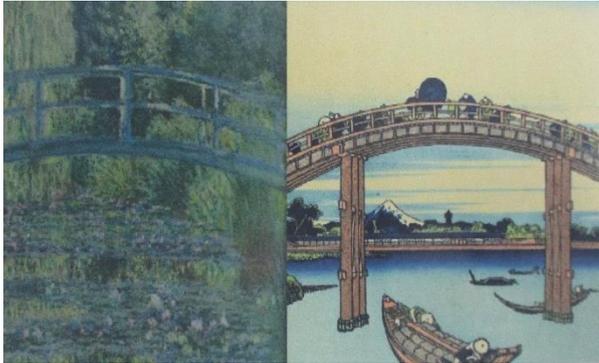
西洋絵画に変革をもたらした「印象派」の新しいスタイルの誕生に、日本の「浮世絵」が影響したことで広く知られている。「葛飾北斎」、「歌川広重」、「歌川国芳」といった多くの才能が登場して、大衆向けに大量生産されていた「版画」「浮世絵」は、

生き生きと描かれる庶民の生活や自然の風景、大胆なレイアウトやアングル、多色刷りによる鮮やかな色彩は、伝統的な宗教画とは全く異なる文脈で描かれた「浮世絵」は、ジャポニスムブームを巻き起こした。

「モネ」や「ドガ」は、自らの作品に「浮世絵」の真髓を取り入れて、「ゴーガン」「セザンヌ」「ゴッホ」らも「浮世絵」を多く参照して制作をした。

浮世絵の影響「構図」

浮世絵の大胆な構図は、「従来の西洋絵画には全くなかったもので、印象派の画家たちは、そのエッセンスを取り入れて新しい絵画に挑戦をしている。



ヨーロッパの町並みと江戸の町並み。

時空を超えて出会った東西の絵画の比較。

没入型体験ならではの仕掛け満載で楽しめる好企画である。

